

## 2018年 謹賀新年



福岡県労福協  
理事長 高島喜信

明けましておめでとうございます。旧年中は福岡県労福協に対します格別のご支援・ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

昨年は、一般社団法人として5年目を迎え、公益目的事業を着実に推進するため「ライフサポートふくおか」の相談員を1名増員し、事務局体制を強化しました。更に、「ライフサポートふくおか」の知名度を上げるため、持ち出しの「ライフサポート相談会」を開催し相談事業の充実を図ってまいりました。

また、中央労福協は、加盟団体とともに奨学金問題改善に向けた取り組みで、第一次ステージのアンケート調査により実態を検証し、第二ステージの署名活動で世論喚起をおこしました。さらに第三ステージで「給付型奨学金制度の創設等を求めるアピール」に対する「賛同要請」と「当事者の声の募集」を展開したことが、多く国民の共感を呼び、大きな世論となって政府や国会を動かし、日本で初めて給付型奨学金制度が実現しました。しかし、その内容は極めて限定された人のみの給付制度となっています。今後は、その内容をさらに拡充し、多くの人たちが高等教育に進学できるように大きく育てていく必要があると考えます。引き続き、ご理解、ご協力をお願いします。

今、世界は新自由主義経済のもとでのグローバル化、市場万能主義、競争激化によって一部の者に富や権力が集中する中、格差・貧困が拡大し、多くの国で社会の亀裂・分断が生じています。日本においても、6人に1人の子どもが貧困状態にあり、また、多くの若者は不安定雇用・低賃金・長時間労働等の厳しい労働環境の中で、子育てどころか、結婚さえできない状況にあります。この超少子高齢化問題を解消しなければ、地域の再生、社会の再生はないと考えます。

福岡県労福協は、そういった課題を克服するため、今年も様々な団体とネットワークを広げ、私たちが取り組んでいるライフサポート事業を中心に、働く人・地域の人たちの拠り所として、さらに機能を強化する取り組みを展開していきます。

本年も、労福協が目指す「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」実現に向けて、共に頑張りましょう。



中央労福協  
会長 神津里季生

新年明けましておめでとうございます。昨年は、中央労福協の諸活動、とりわけ奨学金問題において多大なご協力をいただき、ありがとうございました。お蔭様で、給付型奨学金制度が創設されるなど、大きな前進がありました。今後とも、運動をさらに大きくして、給付型奨学金や無利子奨学金をはじめ、既存の返済者の負担軽減や救済策の拡充、学費を含めた教育費負担の軽減につなげていきましょう。

さて、内外ともに不透明さが増し、世界的に格差と貧困が拡大する中、一部の層だけが富を享受し社会の分断を推し進めるのか、それとも、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」が提唱するように「誰ひとり取り残さない」包摂的な社会をめざすのか、私たちは大きな岐路に立っています。

日本においても、中間層が分解され二極化が進展し、あらゆる世代・層で格差・貧困が拡大し、孤立が広がっています。このため、労働時間の短縮や最賃の引き上げ、雇用の安定・社会保障の充実、所得再分配機能の強化を進めるとともに、生活困窮者自立支援制度など社会的セーフティネットを強化していくことが必要です。協同組合や労働組合も働く場や居場所づくり、「助け合い・支え合い」の地域づくりにおいて役割を發揮していくことが求められています。

2016年に「協同組合の思想と実践」がユネスコの無形文化遺産として登録されるなど、協同組合の役割への世界的な評価が高まっています。こうした期待にこたえて、協同組合の社会的価値と力量を高め、労働組合と協同組合が「ともに運動する主体」としての関係を強化しつつ、共助の輪を地域に広げていきましょう。

中央労福協は「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」(2020年ビジョン)の実現をめざして活動を展開していくとともに、2019年の設立70周年に向けて、次なる時代を切り拓くための新たなビジョンづくりにも取り組んでまいります。

引き続き、皆さまのご支援をお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



福岡県知事  
小川 洋

新年あけましておめでとうございます。

福岡県労働者福祉協議会の皆さまには、日頃から労働者福祉の向上にご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

福岡県の経済は、生産、輸出、消費などの指標が全国を上回るなど、景気は緩やかに拡大しつつあります。雇用も、有効求人倍率は県全体で過去最高の1.56を記録し、昭和38年の統計開始以来、初めて全国値を超えるなど着実に改善が進んでおり、この1年間で就業者数は43000人増えました。

今年は、引き続き、「県民幸福度日本一」の福岡県を目指し、この景気の拡大を県内各地の皆さまが実感できるようにするとともに、県内雇用の8割を担い、本県経済の発展と活力の原動力である中小企業へのきめ細かな支援、ワーク・ライフ・バランスの実現、災害時における支援、受援体制の整備など「元気」「温かみ」「安定」を感じられる施策を推進していきます。

こうした施策により、福岡県、そして、九州から、日本をもっと元気にしていきたいと考えていますので、引き続き、貴協議会のご支援、ご理解を賜りますよう、よろしく願いいたします。

新年が皆さまにとりまして素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。



福岡県生協連  
会長理事 東原晃一郎

皆様、あけましておめでとうございます。旧年中はたいへんお世話になりました。今年もよろしく願いいたします。紙面をお借りして新年のご挨拶をいたします。

昨年7月5日の九州北部豪雨災害によってお亡くなりになられた方々のご冥福をもう一度お祈りします。そして災禍からの復興と新たな創造に向かわれる方々の歩みが進みますことをお祈りし、ともにやれることをこれからも続けていきます。

県生協連各位がそれぞれの想いの上に「暮らしやすい地域社会づくり」を模索、実践しつづけようとしていく近年です。生活協同組合でいう「生活」ということ自体が、かつては消費者生活を意味すると思われていました。つまり、より良く物品の販売ないし購入ができれば良いという理解でした。しかし、「生活」は果たしてそれだけのものでしょうか。そうではないと私たちは思います。労働、医療、共済、介護、子育て等へのより良い協同の姿が、私たちの描きたい一つです。

そしてまた、そうした「生活」は果たして組合員だけが享受できればよいものでしょうか。これもそうではありません。同時代を生きる組合員以外の人たち、組合員になりたくてもなれない人たちとともに分かち合うことのできる「生活」の方が、きっとより良いでしょう。そのような協同の姿も、描いていこうとする一つです。

それらは、豪雨災害のような特別の時だけのことではない、と思えます。日常のみんなの日々の暮らし自体がそれらを求めているようです。そのことを胸に、労福協の一員として、皆さんとともに私たちは、今年もがんばっていきたいと思います。



北九州総合労働会館  
理事長 濱地壮太

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、北九州総合労働会館(通称:真鶴会館)の事業運営に対しまして事業団体、労働団体をはじめ、会員各位の皆さま方に、ご支援とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

昨年度後半から大衆演劇の「宝劇場」に入居いただき、今までとは違う活気もできています。ただ、5階のすべてを劇場に、4階の半分を楽屋にと使っているため、今までご利用いただいていた皆さまにご不便をおかけしていることを心苦しく存じています。

そのこともあり、貸し会議室としてのご利用は減少してはいますが、インターネットによる会議室利用増加(謝恩会等、会議以外の様々な使い方を皆さまのお知恵により広めていただいたこと)や、カルチャー教室が増加し、ご利用の方も増えてきています。今後とも皆さまからのお問い合わせや、様々な使い方等のお申込みをお待ちしております。

また、真鶴会館は一般社団法人として社会貢献も求められており、経営的には厳しい状況は続いています。入館いただいております事業団体・労働団体の皆さまをはじめ、勤労者・市民の皆さまが安心して快適にご利用いただけますよう役職員一丸となって、最大限の努力をしまいる所存でございます。

本年も引き続き、真鶴会館に対しましてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。





九州労働金庫福岡県本部  
本部長 梶原正実

新年あけましておめでとうございます。多くの皆さんに支えられていることに改めて感謝申し上げます。

日銀の「マイナス金利政策」の続く今までにない厳しい金利情勢の中、九州労働金庫は中期経営計画で掲げた「きっと、もっと、ずっと、

お役にたてるろうきんへ」を推進していくための重点施策である「原点に返ったろうきん運動の推進」及び「収益体質の改善」に基づいてとりくんできました。特に、会員との連携を深めて、組合員のニーズに合わせた提案型営業の推進を強化し、組合員の生活設計・生活改善・生活防衛のとりくみを推進してきました。

本年も「会員・組合員のお役に立つろうきんへ」「すべての働く人のお役に立つろうきんへ」「地域社会のお役に立つろうきんへ」の3つのとりくみ方針をもとに、会員と協働した「しあわせ創造運動」を積極的に展開し、福祉金融機関としての役割発揮に向けた社会貢献活動を展開していきます。

私を含めた役職員一同、労働金庫としての姿勢や仕事を厳しく見つめなおし、また新たな気持ちでチャレンジし続けたいと決意しているところです。

2018年が会員・組合員およびご家族の皆さん、そしてすべての働く人にとって良い年になることを祈念申し上げます。年頭のご挨拶とします。

今年もどうぞよろしくお願い致します。



全労済福岡推進本部  
本部長 佐田正二

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、全労済の諸活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、全労済は、2017年9月に60周年を迎えました。これまで支

えていただいた組合員、協力団体の皆さまに感謝するとともに、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の理念、「組合員の全労済」「正直な全労済」「努力の全労済」の信条をしっかりと守り共済推進活動を展開してまいります。

また、2017年は中期経営政策（Zetwork-60）の「組織改革」を実行した変革の年となり、2017年9月より全労済福岡県本部は名称を「福岡推進本部」に変更し、事業推進の拠点として事業推進活動の深化をすすめることといたしました。

全労済の共済制度は、ひとりでも多くの組合員の皆さまに利用していただくことにより、「可処分所得の向上」や「将来に向けた安心創り」の一翼を担うことができるものと信じています。

これからも組合員・協力団体の皆さまにお役立ちができますよう「共感・参加・信頼」による価値観を共有化し、より魅力的な「保障の生協」を目指してまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

**謹賀新年**

本年も九州ろうきんを  
宜しくお願い申し上げます。

九州労働金庫福岡県本部  
本部長 梶原 正実  
役職員一同

けっけい使える。  
ろうきん

<http://kyusyu.rokin.or.jp/>

つかえるろうきん みんなのろうきん **九州ろうきん**九州ろうきん 検索

ZENROSAI NEWS

**謹賀新年**

本年も全労済を  
宜しくお願い申し上げます

**全労済福岡推進本部**  
(福岡県労働者共済生活協同組合)

本部長  
佐田 正二  
役職員一同



保障のことなら 〒810-8611  
福岡市中央区舞鶴1-1-7  
**全労済** TEL 092-739-6100  
http://www.zenrosai.coop

全国労働者共済生活協同組合連合会  
全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

40172025



連帯・協同で安心・共生の  
福祉社会をつくるため  
本年も頑張ります。



北九州地域労働者福祉協議会

会長代行 濱 地 壮 太  
事務局長 遠 藤 禎 幸  
職員 森 谷 尚 美



京築・田川地域労働者福祉協議会

会長 中 野 敬 介  
事務局長 安 藤 正 宣  
職員 藤 野 勢 津 子



遠賀川地域労働者福祉協議会

会長 柴 田 典 利  
事務局長 寒 竹 準 一  
職員 大 庭 菜 摘



福岡地域労働者福祉推進協議会

会長 石 堂 高 大  
事務局長 桑 原 忠 志  
職員 桑 野 小 代 里



筑紫・朝倉地域労働者福祉協議会

会長 森 田 誠 一  
事務局長 原 山 豊  
職員 丸 山 よし子



北筑後地域労働者福祉協議会

会長 鹿 田 哲  
事務局長 西 田 修 三  
職員 良 永 礼 子



南筑後地域労働者福祉協議会

会長 坂 田 修  
事務局長 本 田 賢 治  
職員 浦 濱 明 美



ライフサポートふくおか

事務局長 木 村 洋 三  
事務局員 伊 藤 正 美  
事務局員 三 原 修

福 祉 募 金

日頃のご支援に感謝申し上げます  
本年も何卒ご協力を賜りますよう  
お願い申し上げます。

取組期間：2017年12月1日～2018年3月31日

[目的] 心身ともにハンディキャップを背負いながらも、自立と社会参加をめざす人達の福祉向上と、支援の輪を広げていくことを目的とします。

2016年度の実績では  
8,287,811円の浄財を  
集約し、県内23の施設へ  
必需品を寄贈しました。

平成三十年 元旦	お願い申し上げます	職員	本年もよろしく	監事	理事	専務理事	副理事長	副理事長	理事長	一般社団法人 福岡県労働者福祉協議会役員
			小森田	山田安桑寒本遠原中東坂染小	深	佐	梶	高		
			紀	山田安桑寒本遠原中東坂染小	町	田	原	島		
			子	山田安桑寒本遠原中東坂染小	裕	正	正	喜		